



小院瀬見新聞

2026年3月号

小院瀬見新聞社

〒939-1764
富山県南砺市
吉見70番地
編集担当 中島健二
電080-6359-3992

大雪一転 雪解け駆け足

集落では早くもイノシシ被害

今冬も大雪に苦しめられた南砺市の西太美や太美山など小矢部川上流域だが、2月中旬以降、急速に雪解けが進み、過去にはあまり見られなかった異例の事態が発生している。小院瀬見では2月末に集落内でイノシシが地面を掘り返す被害が確認されたほか、市道の流水融雪も早々と停止。一方で近隣地区では雪による被害が続々明らかになっており、気候変動を象徴するような極端な寒暖差が地域に不安を広げている。



イノシシが地面を掘り返した現場。2月の被害は異例の早さ

イノシシ被害が確認されたのは2月26日の朝。小矢部川左岸の福光温泉橋から100メートルほど集落側へ入った市道脇の敷地。地面が掘り返され、土砂が水路をふさいでいるのを確認された。このように雪解けが進むにつれて、住民が見つけた。田んぼなど農業への影響はないものの、排水に支障をきたすため早めの復旧が必要になりそう。冬眠をしないイノシシは冬季も餌を探して動いているが、雪の多い間は田畑や住宅エリアに出ることがあまりないとされる。近年、イノシシの出没は増加しているが、住民によると小院瀬見で2月中旬に地面を掘り返し、見つかったのは極めて珍しい。集落内では2月末の段階で、田圃や棚田のあぜが露出し、イノシシがぬかるんだり、イノシシが掘り返した地面を求めて出てきたとみられる。このまま天候が推移すれば農作業が早めに行われることが半面、今後さらに里でのイノシシ出没が増えるのは確実で警戒が必要になる。このように雪解けが進む天候の状況を受け、小院瀬見自治会は冬期間、用水路から引いた水を道路の上にあふれさせて雪を融かす流水融雪を2月第3週の週末に取りやめた。自治会の塚家夫会長(74)は「この先の天気予報でも積雪がひどくなることはないと思われるので」と判断。3月を待たずに停止するのは珍しいという。

2面 「心に小院瀬見」 「アナログを語る会」300回



ブルーシートに包まれたまま倒れた網掛八幡社の狛犬

網掛では雪の傷あとも 八幡社の狛犬倒れる

一方、1月後半から2月初めの強烈な寒波襲来で思わぬ被害を受けた地域もいくつかある。今冬もブルーシートのなかから頭だけを出したかわいらしい姿が見られていたが、現在は無残な情景となっている。網掛区長の山崎邦雄さん(81)は「長い間ここにいて、こんなことは初めて」と驚く。地区内では雪で屋根が破損した家が複数軒あり、雪害のひどさを物語っている。

3,4面 詳細・DC意見交換会

つるつる集落産 極上の香

小院瀬見くらぶ「蕎麦の会」

集落内で長期間耕作放棄されていた棚田を開き、初めて蕎麦を収穫。再生させた「小院瀬見」が昨年、空気が乾燥した蕎麦(そば)の栽培が成功。2月15日に高岡市のくらぶメンバーの自宅で、打ち立ての味を楽しむ「蕎麦の会」を開いた。収穫できた蕎麦は4.5ほど。会では、知人を通じて招待した蕎麦仙人として知られる砺波市岸指導、もり蕎麦で味わう谷の松田敬夫さん(77)とメンバーは「香りがす吉さん(73)が自作の道具を使って打ち、十割蕎麦などにした。メンバーたちは名人技に驚いた様子。



珠玉の技を披露するそば仙人の松田さん(右)

「仙人」すこくいい出来」

今度は春夏の絶景を 西太美フォトコン募集

西太美地区は夏作品の募集も行う。春夏の募集案内をまわす。夏の募集は7月1日から9月10日まで。地域内外の誰でも応募できる。一般部門と、福光南部小学校区内在住者限定の小中学生、西太美地区在住者限定の高校生以上が対象のふるさと部門がある。作品に部門名、題名、撮影日時、場所、氏名、住所、電話番号を記載添付し、西太美交流センターへメールか



書籍の挿絵や表紙画などで活躍

依頼相次ぎ 評価が励みに

昨年、小院瀬見のCasa(カーサ)出版が発刊した書籍2冊の挿絵や表紙などのイラストを一人の女性が制作、独創的な画風が話題を呼んだ。集落出身者の親族であるituka(いつか)さん(19)。幼少時に母と通った美術教室での遊びを原点にデジタルアートの多彩な表現で生み出してきた作品は周囲から評価され、今や人生を生きる上で大切な存在として絵に向き合っている。



※第10回※
画家で活躍
itukaさん



自画イラスト

5歳で入った立山町の美術教室には高校へ入るころまで通っていた。「親子で何か習いたいな」と思っていた時に知人の娘さんがそこへ通っていたことを知り、初めて習い始めました。とitukaさんのお母さん(5)。水彩や油絵、版画など多彩なジャンルを学んできた。

最初は遊びの一つのつもりだったが、徐々に絵画としての制作に熱中、小学4年からはスマホでデジタルアートも始め、その後iPadでの制作に、中学に入

劇団の劇中画も制作

不登校になることもあったが、自分だけで時間がある時に描いていたとitukaさん。その姿を優しく見守ってきたお母さんの存在が心強かった。「好きなことをやって評価されるように」と周囲から頼まれたりして、それをお母さんが喜んでくれたのがうれしかった。高校2年の時、思わぬ依頼が飛び込んできた。「富



山県不登校を考えるネットワーク」が企画した、悩みや相談や援助を求める窓口を地図で紹介する「もしも不登校になったら」という本より「そいマップ」の表紙の制作。虹のよを7色のチューリップの花をまじった子供たちをメインに合掌造りやライチョウ、ホタルイカなどもあしらったイラストは大評判となり、今も使われている。中学時代の県青少年美術展入選に続く成果に、たくさんの人に喜んでいただけて、本当によかったと親子で感激した。

親族ゆかりの小院瀬見には時々お借りした。2024年の夏には、集落の古民家で開かれたアート展にいくつか出品。繊細な筆致と深い色使いで表現した作

品は地元の住民をはじめ、県内外から訪れた来場者をも驚かせた。Casa出版の関係者の目にもとまり、堀宗夫代表が集落のための制作を依頼。昨年の2冊の挿絵などにつながった。

「思うまま絵を描きたい」という思いを大切にしながらも依頼を受けて制作活動が続いている。「本当に描きたいのは女の子が出てくるイラスト。絵の女の子が抱く思いを込めて表現したい。そんな絵のことを母に説明するのが面白くて」というitukaさん。これからも「自分のやりたいように絵と付き合っていく」といふ。

驚異の300回「アナログを語る会」



300回目も往年の機器で音を堪能

南砺市の福光 年の音響機器を通して好地域で25年前、の音楽をレコードで鑑賞、思いを共有してきたレコードの魅力「アナログを語る会」がにひかれた愛好者らが発足させた。毎月1回、真空管アンプなど往2月例会で300回を迎えた。節目の日となった13日は定例会場として

やさしく深くこだわりの音

記念のジャズバンド演奏も堪能

語る会は、音響器材の製造企業に在籍したことがある同市穂瀬戸の中山佳明さん(76)ら音楽好きの仲間5人ほどが集まり真空管アンプなどを通してレコードを聴いていきたのが始まり。2001年から定例化し会組織として始動した。中山さんが会長を務め、会員が秘蔵のレコードを持ち寄りて曲の由来や思い出を紹介し合っている。

ジャズやクラシック、演歌、民謡、重謡などジャンルにこだわらず、月

わすれ集まりやすい会」(中山会長)との趣旨で現在25人の会員は南砺市

ジャズライブが記念日を盛り上げた

だけでなく富山県西砺各地や富山市、金沢市在住など多彩。小院瀬見など西太美や太美山にも会員がいます。

13日の記念例会には20人が参加。会員の南砺市坪野、中山登さん(69)がベース奏者で加わるジャズバンド「BANDONEON」がスタンダードなどの曲を披露した。続いでレコード鑑賞では会員自作のスピーカーが持ち込まれ、じっくりとアナログの音に浸った。

300回は会員自身が驚くほどの快挙。中山会長は「アナログの音はやさしく心地いい。古いものを大事にして続けていきたい」と思いを語った。



白い花を咲かせた蕎麦の畑は 郷土の心を和ませる



蕎麦打ちの後は皆で味を楽しむ



秋、収穫にわくわく心が躍る

小院瀬見クラブが昨年、挑戦した初めての蕎麦づくりに。極上の香り豊かな味は絶賛され、今年もさらに面積を増やす。

①面に本記

鮮やかに蕎麦打ちを披露する藤田千吉さん。蕎麦打ち台はなんと自作だという

写真は小院瀬見くらぶ提供



地域づくり協の情報交換会=1月27日、西太美交流センター

南砺DC計画 住民説明質問会



里山の会の意見交換会=2月5日、南砺市役所(詳細④面)

南砺市の小院瀬見から才川七にかけての中山間地が誘致した開発業者「Gigastrera」が用地造成などを計画する国内最大級のデータセンター(DC)設置の西太美地域づくり協議会と、環境影響などを心配する市内外関係者により、今後継続して対話を考える会が1月末と2月初めに相次ぎ、質疑を行う情報見交換会を開いた。

「南砺キャンパス」と名付けて市内に複数のDCを配置し最終的な電力使用量3・1ギガワを想定した大規模DC集積地を目指す巨大プロジェクトを要約で紹介する。

DCは情報通信社会の元良性(システムの重要要素を重複させておきインフラであり、そのくことで、どこかに障害情報量が激増している。や災害が発生しても機能特に最近AI(人工知能)を維持して信頼性を高める)のため計算量が世界的に飛躍的に増えているが、土地があるか、など、南砺市はこういってDCの中でその利がすべてはわれている。自然災害のリスクも少ないので最適なDC集積地になり得る。今、造成を準備している所では2028年のDC完成を目指しており、設計では使用電力400メガワットで日本最大問題。例えば電力がふんだんにあるか、それが水など環境にいい電力があるか、光通信ケーブル

「西太美・情報交換会」が主催した「データセンターに関する情報交換会」は1月27日、西太美交流センターで開かれ、建設予定地地元の小院瀬見、才川七を中心に住民ら50人が参加。Gigastrera(ギガストラ)の代表者として、才川七を統括する南砺市からフランクリン、南砺市岩佐市長、南工業立地課の西井有課長らが出席したほか、造成交換会を開く。

「お断り」主な項目を分りやすく要約した表を掲載。実際の発言を現しました。

「西太美・情報交換会」設計などを担当する大日本ダイヤコンサルタントの関係者も対応した。冒頭、コックス社長がDCの必要性や南砺に立地させる理由など、南砺市が誘致の経緯などを解説した。続いて協議会の山下道会長が基本質問を行い、会場から参加者も質問した。

地域づくり協議会は3月19日にも西太美8地区全世帯に参加を呼びかけた情報交換会を開く。

理由は構造的、物理的。Oメガワットで日本最大問題。例えば電力がふんだんにあるか、それが水など環境にいい電力があるか、光通信ケーブル

理由が構造的、物理的。Oメガワットで日本最大問題。例えば電力がふんだんにあるか、それが水など環境にいい電力があるか、光通信ケーブル

「DCは情報通信社会の元良性(システムの重要要素を重複させておきインフラであり、そのくことで、どこかに障害情報量が激増している。や災害が発生しても機能特に最近AI(人工知能)を維持して信頼性を高める)のため計算量が世界的に飛躍的に増えているが、土地があるか、など、南砺市はこういってDCの中でその利がすべてはわれている。自然災害のリスクも少ないので最適なDC集積地になり得る。今、造成を準備している所では2028年のDC完成を目指しており、設計では使用電力400メガワットで日本最大問題。例えば電力がふんだんにあるか、それが水など環境にいい電力があるか、光通信ケーブル

「南砺市商工業立地課説明」の経緯、理由など。先きさせていたこと(市有地)は、昨年1月に南砺市が財分として、19日市議会最終日(19日)2部の一部を買取りたい。前17日に議案を上げ、1月下旬にハワイであった。今後誘致活動を皆さまの意見を聞きながら進めていきたい。

「(電磁波とミツバチ)」DCからの電磁波発生、影響をどう考

A DC予定地近くに南福光線系という変電所があり、そこから電圧を下げながらDC敷地内建物内、サーバーのチップまで配電する。その際の高圧線、減圧設備、配電設備の周りに幾分か電磁波は発生する。そこから1、2分以内の至近距離では影響はないと言えないが、住宅がある場所近くでも500Vある人間への影響はない。た

「(工事での土砂流出)」造成工事野地造成や川への土砂流入は避けたいか?

A 濁水流入による耕作への影響可能性は認識しており、工事では濁水などを集水して排水を防ぐ排水路を設置することで斜面からの土砂流出を元から防ぐ計画を進めている。(大日本ダイヤコンサルタント)

「(豪雨時対応)」西太美は20年前前に水害があったが大丈夫か?

A 開発予定地は現在、硬い舗装で流出の変化はないが、流量が増えるので水の勢いが一旦止めてドレーキになる調整池を設置する。(大日本ダイヤコンサルタント)

「(自然環境への影響)」地域には無農薬農業など自然を大切にしたい活動をしたい。統一的に環境整備の考えは?

A 環境調査の必要性をギガ社と相談している。大日本ダイヤコンサルタント社とも相談しており、内容が固まり次第説明する(南砺市)

「(熱の生物影響)」熱が発生したら病害虫バツヤやカメムシの大量発生はありうるか?

A 森林の多くは残すよう計画になっているので、そういった中で動

「(DC先行地視察)」どんなDCになるのか実態が分らない。市が先行地を調査し実態を見て市民に報告することが必要ではないか?

A 視察はまだやっていないが早速計画報告もする。(南砺市)

「(排熱利用できるか)」国外ではDCの排熱を集合住宅の暖房に使うなど有効利用例があるが南砺は?

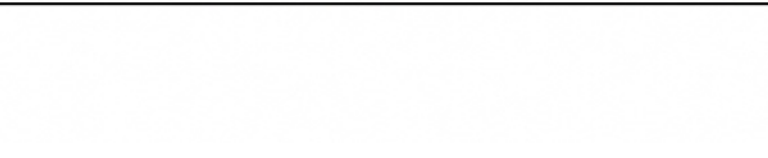
A 他市ではウチギ養殖や作物栽培の活用例がある。運用業者が利用させてくれるかどうかだが、ギガ社を通じて事業者に伝えることは可能であり提案をいただいた(南砺市)

「(工事車両の影響)」工事期間中の車両通行による危険性やストレス対策は?

A 大日本ダイヤコンサルタントと作成している造成分計画では敷地内の土を(高低差がなくなるよう)移動させることで平らにする手法にしている。それだと現場からの土の搬入搬出はほとんどなくなる。さら

「(住民との対話)」住民への定期的な説明会実施や情報公開への考えは?

A 今後の情報交換会で皆さん、どんな懸念があるのか、どんな情報を知りたいのかなど懸念や問題点について対話できるようにしていきたい。全国や世界の事例を参考にできることを考えていきたい。そのために対話を継続することが大切。(コックス社長)



「南砺キャンパス」のイメージ(ギガ社HPから)

